

過眠（ナルコレプシー）

症例 1

男性 45歳 独身

昼食の後、すごく眠くなる。日中でも急に眠くなることがあるので車の運転はしない。腰痛ということで鍼灸治療にかかった。

いろいろと生活内容を聞くと、食後や日中にひどい眠気に襲われるという。

10年くらい前まで車の運転をしていたが、危ないので止めた。

筆者の施術にかかって1年半が過ぎた。

コロナ禍以前、会社に出勤していた時は、午後の会議はひどい眠気に襲われてブラックコーヒーをガブ飲みして、しのいでいた。

5人くらい的人数で行うので、眠るとすぐにわかる。

出来るだけ発言するようにしていた。

コロナが始まってから在宅勤務になった。

腰痛のツボは左関元兪穴で、腎の弱りが左志室穴と腎兪穴に現れていた。

過眠の改善ということで左申脈穴にも刺鍼した。

自宅で昼食後、15分くらい仮眠すると、午後、ひどい眠気に襲われることはなくなった。

またコーヒーを好んで飲むことがなくなり、特に缶コーヒーは旨さを感じなくなって、立てたコーヒーだけを飲むようになった。

腎が弱いと夜は普通に寝ているのに、昼間も眠たがる人がいる。

中医学の奇経の説明

「陰蹻脈は目をつむることに関係が深く、陽蹻脈は目を開けることに関係が深い」と説明している。

陰蹻脈の主治穴は照海穴、陽蹻脈の主治穴は申脈穴である。

従って昼間、眠気が強い人は申脈穴を治療すればよい。

夜、睡眠に問題がある人は照海穴を治療する。

また肝の弱りは夜、眠られなくなる。腎の弱りは日中、ひたすら眠くなる。

症例 2

女性 32歳 主婦

夕食後はものすごく眠くなって、食べ終わったらすぐに30分ほど眠る。

夫は納得しながら、半分あきらめている。

7歳の娘が食事の後片付けをしてくれる。

中医学の子午治療で、腎は午後6時、大腸は午前6時の時間に関係が深いと説明している。

腎が弱い人は午後6時前後の2時間の時間帯に、腎の気を十分に発生できないので眠くなる。

患者さん曰く「夫が塩辛い味付けが好きなので、私もそれを食べていて腎が弱いと思います。

おしっこの量が少ないです。足がむくみます」

午後に治療にかかる患者さんである。

毎回の治療で硬結・圧痛がある右腎兪穴と左志室穴に指圧と揉捏を行うと、筆者の治療時間 50 分間の間に 15 分間ほど深く眠る。

その後、2 日間は夕食後、ひどい眠気を感じないで食事の後の片づけは娘と一緒にやる。

さらに塩分を減らす食事内容にすると改善すると思われる。

症例 3

男性 40 歳代の患者さん。3 回しか施術にかからなかった。

腰椎が 6 個あるという。

トラックの助手で、荷役積み下ろし作業をしている。

夜は普通に 7 時間程度寝ている。

アルコールは弱いので、他の人の半分くらいしか飲まない。

日中、ひどく眠い。

運転手には悪いが、乗っている間は眠らせてもらおう。

その代わり、積み下ろしの仕事は二人分の仕事をする。

患者さんの話で、車がバックするとき「俺が助手をやっているときに、バックで絶対に事故を起こさせない」という気持ちで、「車から飛び降りて、後ろを誘導する」という。

腰椎が 6 個あるのは腎の弱りがあると推測される。

しかし、この患者さんの少し後に女性で腰椎が 6 個ありますという人がかかった。

昼間、特に眠いということはないということであった。

腰椎棘突起を第 5 腰椎から数えなかったが腎兪穴の硬結は、左右の第 12 肋骨端を結んだ線上にあった。

腎兪穴を片側ずつ重ね母指で持続圧すると、臍に響いた後、足底の湧泉穴に響いた。

治療を受けた夜はいつもよりもぐっすり眠られるので、次の日、一日中、寝っぱなしではなく、運転手と話しをする。

すると運転手は「お前、今日、元気だな」と言ってくれる。

継続して治療にかけると少しずつ改善するのだが、勤務が不規則なので続けられなかった。